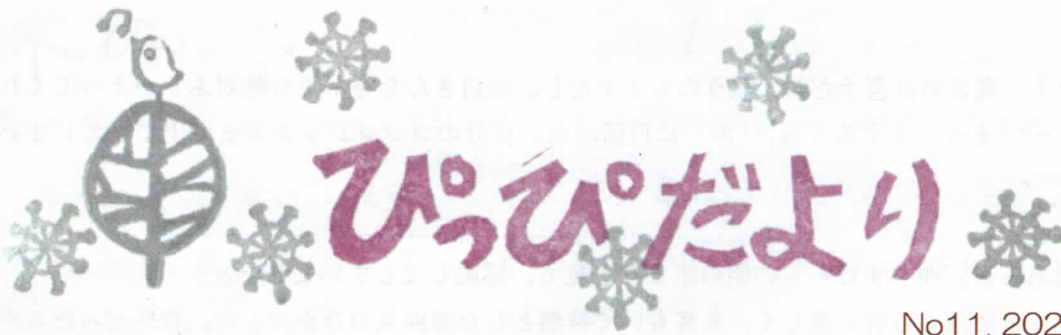




ぴらぴだより

No11. 2023. 1. 31

おおくり「呼吸の時間」を担当している西川真木枝です。ぽろぴっぴでは、小2の友珠（ゆみ）がお世話になってます。

ぴっぴに来るたびに、着いた瞬間いつも感じることは、

「いい匂い〜」

です。たき火の匂い。雨に濡れた土や葉の匂い。モミの木の匂い。すうっと息を吸い込むと、はあ〜と大きく吐けて、緊張がほぐれていくのを感じます。おおくりの奏空くんの言葉を思い出します。「(葉っぱをこすりながら) 呼吸すると匂いがするよ」

*

「呼吸の時間」を通して、からだの感覚や感情など、目に見えないものをおおくりさんたちと言葉で共有するということをしています。

たとえば、「匂い」もそうだし、「音」「からだの感覚」「味」「気持ち」。どれも目に見えないものです。でも「ある」ものです。子どもたちに、見えないけどあるものって他にある？と聞くと、「空気」「からだの中」「ウィルス」「ミジンコ」「蜘蛛の糸」などハッとするような答えも飛び出します。

ひとりの子は、「紙も見えない」と言いに来ました。紙の原材料が見えないという話だったようですが、深い話です。皆さんだったら、どう答えますか？

わたしは、子どもたちとのこういう対話が好きです。

子どもたちの感性から零れ落ちる言葉は、透明でキラキラ輝いていて、真実に迫っていて、感動します。子どもたちは、わたしに「言葉」という“大人と子どもの共通言語”で伝えてくれるわけで、感謝しかありません。

*

一方で、(ここからわたしの悩みの話になりますが)

「子どもの言語」というものを大人である自分が理解しているかは、いまだ自信がありません。というのも、子どもの言語は、意味よりも、言葉の上に乗っている響きだったり、抑揚だったり、リズムだったり、間だったり、顔や身体の実現だったりするわけで。全部あわせて、「伝わる」になる。それが、どうしても自分は(子ども言語の) ネイティブスピーカーのように話せない、伝わらないと感じているのです。

そもそも、喋るのは苦手だし、歌うのも下手だし、店員さんと呼んでも絶対ふりかえってくれないし… そうこうするうち、「声」に自信のない自分のコンプレックスまで出て来てしまいます。

そんなある日、ゆうすけっちの朝の集まりを見て、感動してしまいました。

雨がテントに落ちる音が激しく、来客もいて雑然とした雰囲気の中でした。普通だったら声を張って伝えたくなりそうなのですが、ゆうすけっちの声はいつも通り。後ろまでは聞こえない位のささやかな声でした。それにもかかわらず、子どもたちは「ないけど、あるもの」（それが何だかはわからない）に敏感に反応して、みんなで息を合わせて共に歌うこと、その場に共に居ることを、とてもとても楽しんでいました。

また別の日には、びっぴの森にまゆさんの歌声が響いていました。そりをする子どもたちを見守りながら、ただ楽しそうに、ひとりで可愛い歌を歌うまゆさん。意図はよくわかりません！でも、子どもたちがいる雪景色に、光が降り注ぎ、歌声がその場を彩り、なんと綺麗だったことか。

…びっぴのバケツの中の氷のように、カチカチだった自分の頭が溶けていきます。

そして雪の坂道をのぼりながら、気がつくとなたしも「森のくまさん」を歌っていました。それをじっと聞いているまつぼっくりの董ちゃん。何を言うかと思えば、一言、「きれいな声してるね」

伝わるってどういうことでしょうか。

感じるってどういうことでしょうか。

びっぴで大きく息を吸って、吐くたびに、「見えない、聞こえない、言葉にできない、けど、ある」が押し寄せてきます。子どもたちが大きくなったときに、目を閉じて、自分の中にこのすべてが「ある」と感じられるように、共に成長していきたいと思っています。

：西川真木枝

木のいきもの子育てばなし 2月

♪ 森の木のエダよくみると ♪ かたいからにかまれた 小さいきのめが ♪

みつかったら寒い さむい 冬でも 負けるな まけるな ... と ♪

冬のぴっぴの森でこども達のこんな歌声がきこえてきます。「まもり」というメロディも美しく優しい賛美歌です

今月はこの歌にうたわれている冬の木の芽“冬芽”のお話です

“冬芽”(ゆめとが)とは休眠、越冬して春に葉や花になる芽のことをいいます。マイナスの気温でも凍ってしまわぬよう、鱗のようなものや、蟬、ふわふわの毛のコートで冬芽たちは守られ、そのコートの中をみてもみると小さく折りたたまれた緑色の葉や、黄色、うすピンクのつぼみなど小さな命がじっと春をまっていることがわかります。

樹種によって、冬芽は形も大きさも違い、夏についていた葉の痕が顔のようにもみえたりとても愛らしい姿をしているものも多いので、ぜひ、冬の森で探してみてください！そしてその冬芽が春に芽吹く様をみると、まるで命の誕生の瞬間に出会ったようで感動しますよ♪ 葉々鬼

